

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200194		
法人名	有限会社ライフクリエーション		
事業所名	グランマ「カノン」	ユニット名	1F 風
所在地	静岡県浜松市西区村櫛町3963		
自己評価作成日	平成31年2月5日	評価結果市町村受理日	平成31年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_deta1_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2297200194-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_deta1_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2297200194-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成31年2月22日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人としての尊厳を守り、敬う気持ちで対応している。  
環境の良い立地のため、戸外での活動ができる。季節を感じることができ、個人対応もしている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の管理者と職員は理念を理解しており、利用者には何かあれば立ち止まり再度理念の「人間としての尊厳を大切にします」に立ち返り、利用者を人生の先輩として敬いながら対応している。また、自然に囲まれ鳥のさえずりが聞こえる事業所にはグランドピアノの演奏をする利用者や職員がおり、常に音楽に触れ合っている。毎日朝と夕方散歩に出かけ、午後には脳トレを行いADL日常生活動作を維持しながら、職員は「自分で行う」ことを継続できるように心がけ対応している。家族の来訪も多く、利用者や職員の笑顔が絶えない事業所となっている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者、利用者家族が望む生活が出来るよう、人としての尊厳を大切にしながら取り組んでいる。	理念は職員に浸透しており、利用者を人生の先輩として対応し、ケアに対してプライバシーを守り行動している。問題があれば理念を再確認し、対応を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩での地域の方々との交流(挨拶、会話)。 地元のお店利用(床屋、八百屋)	近隣の方が案内をポストに投函してくれるので、地域の行事に参加している。散歩時には近隣の方とお互いに挨拶を行っている。2月の豆まき「なた餅もたせ」で小学生が8人来訪し、利用者と一緒に昔馴染みの行事を楽しんでいた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	常に施設はオープンにしている。 見学することもできる。 質問があれば相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1か月間の活動報告をし、その月に提案する課題を変えて意見交換やアドバイスをいただいている。	運営推進会議では、毎回テーマを決めて意見交流を行っている。会議の前には研修会などで学んだ事を発表して、参加者と共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主には運営推進会議での交流になる。 施設の取り組み、考えを伝えている。	運営推進会議に毎回地域包括支援センターの職員や市職員が参加しており、欠席時には意見をもらって連携を図っていた。介護保険の更新時には、必ず市役所に行き対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない。していない。 行動指針の掲示もしており、家族や見学者が目にする事ができる。 玄関、リビング施錠もしていない。	事業所玄関は常に解放されており、利用者は職員に声を掛けて自由に外出している。共有ルームには、身体拘束に対する指針が掲示してあり、職員は理解して常時対応ができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	全ての職員が理解をしており、虐待に関して研修を受けた者は、他職員に学んだことを伝え、常に意識をするよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援に関しては、職員間で常に話し、マンネリ化しないように取り組んでいる。成年後見制度を利用している方はいないが、必要性を感じれば話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に保証人と納得するまで話し、理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話で常に話している。意見や要望があれば皆で共有している。理解や納得されるまで取り組んでいる。	職員は、家族の事業所来訪時に意見があれば日誌に記入し、申し送りで共有している。年2回家族会を行っており、家族の意見も聞き取っている。事業所の便りも毎月送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に話しやすい関係でいられるよう心掛けている。顔を見て会話をし、意見を聞いている。	管理者や各リーダーに対して、職員は気心が知れており、風通しの良い関係性ができている。職員の意見から管理者やオーナーに意見が通り、脱衣所の洗濯物干しが修理される予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に話を聞くようにしている。困っていること、悩みがないか？家庭内、職場内含め働きやすくしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれ得意な分野をメインに活動をしている。職員間でも協力できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会の門戸を広げており、他の施設の訪問もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、入所後でも本人の望む生活、不安、悩み他に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望は常に電話や面会時に直接聞いている。遠方に住んでいる家族には電話と手紙を送り対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんとは何でも話せる関係になれるように心掛けており、手伝っていただけることがあればお願いをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ほとんどの家族が面会に来所される回数も多く、なかなか来られない方には電話で近況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所しても馴染みの人や場所がある場合は来所していただいたり、家族の協力も得て会いに行っている。	入居前から習っている大正琴の教室に家族と通い、今月発表会に参加する利用者がいる。当日も居室で練習を行っていた。馴染みの美容院に通う利用者や墓参りに出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんの間に入り、話題の提供、お出かけ他、楽しいことを一緒に関わられるように機会やきっかけ作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の施設を紹介し、退所されても面会に行っている。家族も施設へ顔を出してくれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に本人や家族から希望、意向は聞き、把握している。日報にはその日の変化、特記事項の記入。日誌にはそれ以外にも気になる変化や長期的に取り組むことなども記入。	会話の時は目と目を合わせて、本人の口から聞くことが困難な場合は、その時の雰囲気や顔の表情から意向の把握に努めている。日誌や申し送り等で職員全員が情報を共有し、家族に確認して了解を得た上で対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活とかけ離れないよう部屋の利用と、馴染みの生活環境にしている。今まで利用していたサービスがある方に関しては継続している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態に合わせ、個々が必要とする必要性を常に話し合いながら取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は3か月に1度モニタリングをし作成している。毎日バイタルチェック、介護記録を見て必要があれば家族、医師とも話し合っている。	月に1回、日報をまとめて利用者の一人ひとりの状態を把握し介護計画に反映させている。作成した介護計画は3か月に1回見直しを行い、変化のあった場合はその都度見直しをして、現状に則した介護計画を立てている。	利用者の趣味や好きなことの継続に繋がる取り組み等、より本人の意向が反映される介護計画となることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、日報への記入申し送りをし、チェックサインをし、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限りの個人対応を心掛け取り組んでいる。家族や本人とも話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周りの環境に恵まれている。自然を感じながらの毎日の散歩、ガーデンパーク、浜名湖、山方面へのドライブ他、楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員が同行し、毎月1回受診をしている。希望をする家族には、家族との受診もある。薬の変更、検査結果は家族に知らせている。	往診はないが、月1回職員が付き添って事業所の提携医に受診している。受診後は報告書に記入し、必要があれば電話で家族に連絡をしている。急変時には提携医に連絡し、適切な指導を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になること、薬、検査結果はその都度報告し、アドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、面会に行っている。病院関係者には個人の情報を提供し、病院での様子も伝えてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体的変化がある方に関しては、家族にも報告している。状況の変化がある場合は、家族、本人の希望を話し合いその都度検討している。	重度化に向けた方針は入居時に説明し、家族の希望を聞き取り確認を取っている。日々の変化に気づくように心がけ、ちょっとした変化があった場合には早い段階で医師に連絡をして、家族と話し合いを行い事業所でできる限りの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設での急変にはできることは限られており、やるべきことを把握している。日頃から見ている職員が身体の変化に気づき、注意深く見守りをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ライフジャケット、ヘルメットの保管場所を把握している。災害時には職員間の協力、地域との協力体制ができている。	年2回の防災訓練、地域の訓練にも参加している。水害の避難訓練では、利用者もライフジャケットやヘルメットを着用して2階へ避難した。地域との協力体制があり、緊急時の職員連絡網で協力が得られる状況である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を守り、接し方には十分気を付けている。他の利用者さんも聞いていることも常に頭に入れて言葉を選ぶように心掛けている。	人生の先輩として敬意を払い、言葉遣いに気を付けて、ゆっくりとわかるように話しかけている。入室の際はノックをして、個人情報となる話は他の利用者などの耳に入らないように細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でも話しやすいような雰囲気を作るようにしている。個人の性格を考え、その人らしく生活できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人それぞれ考え、思い、気分もあり無理強いすることはしない。時間を置いたり、職員を変えて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の気に入っている洋服を基本的には着ていただいている。できない方には、毎回同じ服にならないようにし、汚れたらすぐに着替えてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は毎回温かい物を提供している。利用者に手伝ってもらうこともある。食べたい物がある時は、特別メニューも一緒に作っている。いただき物もたくさんある。	テーブル拭きや食後の食器拭き、おやつ作り等を利用者も一緒に行っている。誕生日の特別食や季節の食事を楽しんだり、日曜日にはパンのメニューを取り入れてサンドイッチを食べたりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合った食事量、大きさにしている。嫌いな食事メニューは簡単に変更できる物は別メニューにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。 本人ができない場合は職員がしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄記録を毎日記入している。食後、出かける前、移動する前他、その都度タイミングをみて声かけをしている。	排泄チェック表を使用し、タイミングを見て声掛けしてトイレ誘導を行っている。居室にポータブルトイレを置いている利用者は、夜間も自立して排泄ができる様に使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師からの薬の処方と水分摂取や運動を心掛けている。食物繊維の多い食品、果物、ヨーグルトを食事に出している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくりと気の合う利用者同士が入浴を楽しめるように順番には気を付けている。その日により順番は変えている。	週3回、午前中に入浴を行っている。入浴を拒む利用者には無理強いせず、声掛け等を変えたり、次の日の入浴に変更したりして工夫している。入浴時も自立支援を基本に、できる事は利用者が自分でやっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子に1日座っている方には腰を伸ばすために30分～1時間くらい横になってもらう。疲れやすい方、むくみのある方にも本人の様子で声かけをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用には十分気を付けてみている。気になることがあれば看護師や主治医と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の好きな事、嫌いな事を理解し、レクリエーションを考えている。外出、ドライブ、個人対応、気分転換できるように考えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩はもちろん、外出、買い物、外食にも出かけている。お酒が飲めるように家族が外食に連れ出す方もいる。	事業所周辺は比較的車の通りが少なく自然に恵まれた場所である。季節の移り変わりを感じながら、毎日午前と午後に利用者数人が一緒に散歩に出かけている。また、外のベンチに座ってお茶を楽しんだり、月1回の外出や外食等にも出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に本人の希望があれば少額所持している方もいる。家族、本人の希望で支払いは本人からしたいという方には、職員が付き添い支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話はつないで会話を楽しんでいる。贈り物が届くと必ずお礼の電話をかけ会話をしている。手紙も目の前ではさみを入れ、返事を出す方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔でいられるよう毎朝職員が清掃している。時間を作り床や窓の汚れがないように気を配っている。布団も毎日順番で干している。生花を飾っている。	玄関や居間、廊下の壁には多くの絵画が掛けられ、季節の花や家族から送られた装飾品等も飾られている。居間の片隅に応接セットが置かれて少人数で寛げるスペースがあり、別の場所では利用者が窓際のソファに座って読書をする姿も見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にソファを設置している。自由に利用したり、居室、ホール、サロンの利用ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望が叶えられるように使用している。好みの物を使用している。居室での安心安全な家具の設置をしている。	各居室に設置されているクローゼットは、容量が広く衣類等の持ち物がすっきりと収納でき、移動しやすい部屋となっている。自宅から持参した家具や家族の写真等が置かれ、寛げる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シンプルでわかりやすく、安全面でも転倒がないよう動きやすいスペースも作っている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200194		
法人名	有限会社ライフクリエーション		
事業所名	グランマ「カノン」	ユニット名	2F 光
所在地	静岡県浜松市西区村櫛町3963		
自己評価作成日	平成31年2月5日	評価結果市町村受理日	平成31年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2297200194-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2297200194-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成31年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>人としての尊厳を守り、敬う気持ちで対応している。 環境の良い立地のため、戸外での活動ができる。季節を感じる事ができ、個人対応もしている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者、利用者家族が望む生活ができるよう、人としての尊厳を大切にしながら取り組んでいる。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩での地域の方々との交流(挨拶、会話)。 地元のお店利用(床屋、八百屋)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	常に施設はオープンにしている。 見学することもできる。 質問があれば相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1か月間の活動報告をし、その月に提案する課題を変えて意見交換やアドバイスをいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主には運営推進会議での交流になる。 施設の取り組み、考えを伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない。していない。 行動指針の掲示もしており、家族や見学者が目にすることができる。 玄関、リビング施錠もしていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全ての職員が理解をしており、虐待に関して研修を受けた者は、他職員に学んだことを伝え、常に意識をするよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援に関しては、職員間で常に話し、マンネリ化しないように取り組んでいる。成年後見制度を利用している方はいないが、必要性を感じれば話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に保証人と納得するまで話し、理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話で常に話している。意見や要望があれば皆で共有している。理解や納得されるまで取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に話しやすい関係でいられるよう心掛けている。顔を見て会話をし、意見を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に話を聞くようにしている。困っていること、悩みがないか？家庭内、職場内含め働きやすくしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれ得意な分野をメインに活動をしている。職員間でも協力できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会の門戸を広げており、他の施設の訪問もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、入所後でも本人の望む生活、不安、悩み他に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望は常に電話や面会時に直接聞いている。遠方に住んでいる家族には電話と手紙を送り対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんとは何でも話せる関係になれるように心掛けており、手伝っていただけることがあればお願いをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ほとんどの家族が面会に来所される回数も多く、なかなか来られない方には電話で近況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所しても馴染みの人や場所がある場合は来所していただいたり、家族の協力も得て会いに行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんの間に入り、話題の提供、お出かけ他、楽しいことを一緒に関わられるように機会やきっかけ作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の施設を紹介し、退所されても面会に行っている。家族も施設へ顔を出してくれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に本人や家族から希望、意向は聞き、把握している。日報にはその日の変化、特記事項の記入。日誌にはそれ以外にも気になる変化や長期的に取り組むことなども記入。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活とかけ離れないよう部屋の利用と、馴染みの生活環境にしている。今まで利用していたサービスがある方に関しては継続している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態に合わせ、個々が必要とする必要性を常に話し合いながら取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は3カ月に1度モニタリングをし作成している。毎日バイタルチェック、介護記録を見て必要があれば家族、医師とも話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、日報への記入申し送りをし、チェックサインをし、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限りの個人対応を心掛け取り組んでいる。家族や本人とも話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周りの環境に恵まれている。自然を感じながらの毎日の散歩、ガーデンパーク、浜名湖、山方面へのドライブ他、楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員が同行し、毎月1回受診をしている。希望をする家族には、家族との受診もある。薬の変更、検査結果は家族に知らせている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になること、薬、検査結果はその都度報告し、アドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、面会に行っている。病院関係者には個人の情報を提供し、病院での様子も伝えてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体的変化がある方に関しては、家族にも報告している。状況の変化がある場合は、家族、本人の希望を話し合いその都度検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設での急変にはできることは限られており、やるべきことを把握している。日頃から見ている職員が身体の変化に気づき、注意深く見守りをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ライフジャケット、ヘルメットの保管場所を把握している。災害時には職員間の協力、地域との協力体制ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を守り、接し方には十分気を付けている。他の利用者さんも聞いていることも常に頭に入れて言葉を選ぶように心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でも話しやすいような雰囲気を作るようにしている。個人の性格を考え、その人らしく生活できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人それぞれ考え、思い、気分もあり無理強いすることはしない。時間を置いたり、職員を変えて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の気に入っている洋服を基本的には着ていただいている。できない方には、毎回同じ服にならないようにし、汚れたらすぐに着替えてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は毎回温かい物を提供している。利用者に手伝ってもらうこともある。食べたい物がある時は、特別メニューも一緒に作っている。いただき物もたくさんある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合った食事量、大きさにしている。嫌いな食事メニューは簡単に変更できる物は別メニューにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。 本人ができない場合は職員がしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄記録を毎日記入している。食後、出かける前、移動する前他、その都度タイミングをみて声かけをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師からの薬の処方と水分摂取や運動を心掛けている。食物繊維の多い食品、果物、ヨーグルトを食事に出している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくりと気の合う利用者同士が入浴を楽しめるように順番には気を付けている。その日により順番は変えている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子に1日座っている方には腰を伸ばすために30分～1時間くらい横になってもらう。疲れやすい方、むくみのある方にも本人の様子で声かけをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用には十分気を付けてみている。気になることがあれば看護師や主治医と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の好きな事、嫌いな事を理解し、レクリエーションを考えている。外出、ドライブ、個人対応、気分転換できるように考えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩はもちろん、外出、買い物、外食にも出かけている。お酒が飲めるように家族が外食に連れ出す方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に本人の希望があれば少額所持している方もいる。家族、本人の希望で支払いは本人からしたいという方には、職員が付き添い支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話はつないで会話を楽しんでいる。贈り物が届くと必ずお礼の電話をかけ会話をしている。手紙も目の前ではさみを入れ、返事を出す方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔でいられるよう毎朝職員が清掃している。時間を作り床や窓の汚れがないように気を配っている。布団も毎日順番で干している。生花を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にソファを設置している。自由に利用したり、居室、ホール、サロンの利用ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望が叶えられるように使用している。好みの物を使用している。居室での安心安全な家具の設置をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シンプルでわかりやすく、安全面でも転倒がないよう動きやすいスペースも作っている。		